



東日本大震災学術調査(政治・政策班) 第2回研究集会のお知らせ

日時 : 2014年3月14日(金) 13:00~16:00

場所 : 筑波大学 東京キャンパス 会議室432

(東京メトロ丸ノ内線・茗荷谷駅より徒歩5分)

講演タイトル : 米国人研究者の見た東日本大震災と日本政治
何が変わり、何が変わらないのか?

講演者 : Robert PEKKANEN

(ワシントン大学

ヘンリー・M・ジャクソン国際研究大学院 准教授)

本調査は、地震、津波、原発事故を中心として、連鎖的かつ複合的に危機が発生、拡大するという巨大複合災害であった東日本大震災の「想定外」という特徴にも着目し、想定を超えた複合災害の発生に際し、政治・政策主体がとった行動と影響を調査しているものである。今回はワシントン大学からロバート・ペッカネン准教授をお招きし、「米国人研究者の見た東日本大震災と日本政治 何が変わり、何が変わらないのか?」と題してご講演いただく。

<スケジュール>

13:00-15:30 ペッカネン教授による基調講演および質疑応答

15:30-16:00 東日本大震災学術調査「政治・政策」班の活動につきましての全体討議

※当研究は独立行政法人日本学術振興会「東日本大震災学術調査」の受託研究の一環として開催されます。